

ひまわり 咲いた 笑顔に ありがとう



今年も福島ひまわり里親プロジェクト全開

全国の里親のみなさまに心より感謝申し上げます。

全国のひまわりの里親さん、
勇気と笑顔と、やさしさをあり
がとう！

三月十一日、東日本大震災
発生から丸一年を迎えます。
地震、津波、原発事故、二重、三
重の問題を背負った福島県を
何とか復興させよう、福島の復
興のシンボルとして、「ひまわり」
を植えていこうという「福島ひ
まわり里親プロジェクト」も二
年目に入ります。

昨年は福島県をのぞく、北は
北海道から南は沖縄まで、幼稚
園や小中学校、地域団体や企業、
NPOなど、全国各地のさまざま
まな方々に、ひまわりを育てて
種を採取する「里親」として、
本プロジェクトにご参加いただ
き、それぞれの地域、家庭、農地
などに当プロジェクトから購入
したひまわりの種を植えて育
てていただきました。

津波で民家や道路が流され、
荒れ果てた海岸沿いや放射能
の影響で何も栽培されなくなっ
た農地再生のため。

被災しても前向きにがんばっ
ている福島県民が一日でもはや

く元の暮らしができるよう応
援するため。

全国の里親のみなさまはさ
まざまな思いを込めてひまわり
を育ててくださいました。たく
さんの思いの込められたひまわ
りが今年も福島県内各地で黄
色い花を咲かせ、風に揺れ、私
たちを元気づけてくれることと
しよう。

「里親」としてプロジェクトに
参加してくださった方や団体は
実に一万六千拠点、採取されて
全国各地からプロジェクト事務
局に郵送されてきたひまわり
の種は三トンをゆうに超えま
した。数多くの「里親」さんた
ちの応援で、ひまわりが結んだ
絆が、震災で落ち込んでいた私
たち福島県民を温かく包んで
くれました。

私たちは、ひまわりが結んで
くれた福島と全国の絆を大切
にして、今年もプロジェクトに取
り組んでいきます。

ひまわりの笑顔に、里親さん
に、声いっぱいの「ありがとう」を。
そして二年目も、どうぞよろ
しくお願い致します。

福島ひまわり里親プロジェクト事務局 (NPO法人 チームふくしま、福島市)

電話 024-529-5153

HP: <http://www.sunflower-fukushima.com/>

里親申込み 応援メッセージ お問合せ



福島ひまわり里親プロジェクト、始動！

一年前の三月十一日。私たちも、みなさんも、あの日を忘れることはないでしょう。私たちプロジェクトのメンバーは、震災前から、同じ若手経営者仲間として交流してきましたが、あの震災の日から数日、混乱の中で過ごしました。断水や停電、携帯電話も通じず、ガソリン不足が続く中で、家族や友人らと助け合って過ごした者。原発の爆発に伴って県外に避難した者。仲間どうし、お互いに連絡を取り合って、励まし合いながらその時間を過ごしたのです。

何もできない、何もわからないという混乱の時期が過ぎ、お互いの近況

を少し落ち着いて話せるようになってきた頃、私たち若手経営者の先輩から一本の電話が入りました。「福島を何とか元気にさせないといけない。ひまわりが土壌の放射性物質を吸うという話だが、ひまわりの花は見ている人を元気にさせる。ひまわりを中心にして、被災した人を元気づける活動ができないか」。

そこで、福島県内で人材育成と教育研修事業を行う事業所を立ち上げた半田真仁（「採用と教育」代表）が仲間たちに声掛けを始めました。震災後はずっとインターネットで情報を収集し、自身のブログで発信してきた半田は、震災前から事業経営などで勉強会を開いてきた仲間たちが結集。

その中にはまさに福島ひまわり里親プロジェクトでなくてはならない農業のプロもいました。須賀川市で種苗・農業資材販売会社「株」アグリックス「取締役を務める藤島康

広です。さらに、ソフトウェアやWEBデザイン事業「株」アディカ「の堀内孝勇。飲食店経営の鈴木厚志と吉成洋拍ら、地元福島が好きで、福島で事業活動をしてきたバラエティに富んだ仲間がそろいま

した。

集まった当初、それぞれが仕事でもプライベートでも大きな打撃を受けていました。例えば藤島の会社も種苗の売り上げが激減。半田も、取引事業者で大きな影響を受けたところが出ていました。堀内も一時避難を余儀なくされました。しかし誰からとはなく、こう声を掛け合っていました。

「震災の後、いろんなものが見えてきた。福島の安心を守りたい」「福島を何とか立ち上がらせたい。このままでは終わりがたくない」

この大きな被害を受けた今だからこそ、福島や福島県民のために何かしたい。そうして集まった仲間が「チームふくしま」が再結成されました。当初は、放射線測定器で各地を測定する活動しながら、先輩たちのアドバイスを受け、ひまわりを中心にしたプロジェクトを始動させることを決めました。

そうして生まれたのが、この「福島ひまわり里親プロジェクト」です。震災によって失われた元気や勇気を取り戻したい。支援の輪を通じて広がる優しさや元気を、福島だけでなく、日本中、世界中の人々と共有して届けて、お互いがつながっていききたい。そんな熱い思いがたくさん詰まっています。

す。

プロジェクトの大きな事業は4点。

①【雇用創出】ひまわりの種を「思いやりの種」として、福島支援に協賛する方々にご購入いただく。それによってひまわりの種が商品化され、袋詰め作業などが必要になる。その作業を福島県内の障害者の作業所等において雇用を生み出す。

②【風化対策】毎年、ひまわりの種を植えることで、本プロジェクトに参加してくださる方々を「ひまわりの里親さん」とし、福島と他地域とで、季節が来ればひまわりの種を植える活動を進める。それによって「福島を忘れない」という風化対策を図る。

③【絆事業】ひまわりの種を全国に送り出すことで、福島と全国、世界がつながる交流サイクルを構築する。同時に、里親さんが育ててくれたひまわりの種を送ってもらい、次年度も里親さんを増やす事業を継続する。里親さんからはメッセージも募集し、福島県内で展示公開して、被災者に元気を取り戻してもらおう。

④【観光振興】ひまわりが「つなぐ縁」大切に、福島での種まきツアーやひまわり観光ツアーなど、ひまわりをキーワードにした交流イベントを開催する。全国各地の里親さんに福島に来ていただくことで、福島の観光、各産業を盛り上げる。

初年度の二〇一一年は福島と全国との絆づくりと風化対策、雇用創出が測られました。今年二〇一二年はこの活動をさらに発展させ、雇用創出と観光振興に向けて、全国の里親さんに情報を発信していきます。



福島ひまわり里親プロジェクトの流れ

こうして誕生した福島ひまわり里親プロジェクトは、次のような流れになっています。

二〇一一年は、プロジェクトが準備したひまわりの種を二袋五百円で全国の里親さんに購入していただき、個人の各家庭や地域団体、企業、学校などでそれぞれ育てて、花を咲かせてもらいました。そして、収穫された種を福島に送り返していただきました。昨年は福島県をのぞく全国四十六都道府県で一万余千拠点に里親さんが誕生。里親さんからはたくさんの手書きの心温まるメッセージも寄せられ、その件数は一万件を超えました。

集し、全国各地で福島の復興を願ひひまわり栽培に取り組んでいただきたいと思います。

今年さらには、観光団体との連携により、ツアーやイベントも計画しています。全国の里親さんが温泉を楽しみながら福島にひまわりを見に来るツアーを組んだり、里親さんから寄せられたメッセージ展(芽っシーズン展)、フォトコンテストと表彰式、フォトコンテスト入賞作品を福島交通飯坂電車に展示するなど、地域の活性化にも貢献したいと思っています。
エネルギー対策事業も検討しています。里親さんの種をもとにしたひまわり油の活用を図るため、研究・開発にも取り組んでいきます。



2012年夏 里親さんとの絆をさらに深めます!!

ひとりひとりのチカラは微力かもしれませんが、たくさんのチカラが集まれば可能になることもあると思います。私たちの趣旨に賛同いただき、できる範囲でご協力いただければ嬉しく思います。



観光振興

「全国の里親さんと交流を深める機会として、実際に足を運んでもらうような取り組みも大切では」。そんな言葉がプロジェクトメンバーから飛び出しました。ひまわりの縁で、福島の人と里親さんがこの福島で交流する一。

そんな夢のような出来事が実現しようとしています。

その一環として、福島県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部(福島県旅連青年部)

加盟の旅館、ホテル等を中心として、ひまわりをキーワードにした多彩な観光事業が企画されています。すでに研修会なども行われ、参加した若手旅館経営者、幹部から様々なアイデアが提供されました。

このなかには、ひまわりの里親さんらを中心にしたひまわり畑の見学ツアー、ひまわり列車の乗車体験や全国の里親さんのメッセージ展、旅館やホテルの周辺にたくさんのひまわりを咲かせてイメージアップを図る、マスコットキャラクター「ひまぼぼ」君を使った商品展開などがありました。

このほかにも、ひまわり見学バスツアーや、

種まき・種とり体験ツアーなど、里親さんが実際に見て、体験して、福島を支援しようという活動が次々と企画されています。



福島県旅連青年部研修会の様子

雇用創出

福島ひまわり里親プロジェクトは、震災で影響を受けた福島県内の障害者の作業所に軽仕事を依頼しました。それによって、障がいを持つ人の雇用維持と支援に貢献しています。

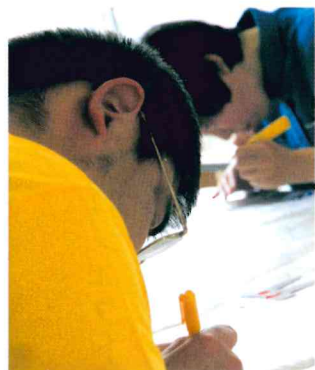
今回、作業をお願いしているのは、特定非営利活動法人「和(なごみ)」（福島県二本松市渋川字大森越二二一

渡辺聖子所長・施設長。同法人は「一か所の作業所があり、約四十人が仕事をしています。

震災前は菓子の箱折り菓子を入れる箱の組み立ての仕事を受注していましたが、震災後は風評被害で福島県内の菓子の売り上げが激減。これに伴って、菓子折り箱が出荷されなくなり、仕事がパツパツと減ってしまいました。

そこで福島ひまわり里親プロジェクトでは、和(なごみ)の職員の方々の力を貸していただけないか、お願いしたところ、渡辺所長を始め、みなさんから快諾を得ることができました。

昨年二〇一一年は、プロジェクトの



事務担当の藤島康広(種苗・農業資材販売会社「株アグリックス」取締役)が調達したひまわりの種を、全国の里親さんに届けるために、種の袋詰めから里親さんへのメッセージ書き、発送など一連の作業をお願いしました。

今年も、全国の里親さんが育ててくれたひまわりの種の発送作業が始まり、一粒一粒より分け、袋に梱包しています。

主任の土屋悦子さんは「震災直後、風評被害で梱包材の作業がなくなってしまう。その作業をしていた入所者が、ひまわりプロジェクトの作業を担当しました。

作業の合間にも『今年もきれいに咲くといいね』『遠くの里親さんも送ってくれているんだね』と話したりしています。ひまわりの種が全国に届いて、花が咲くというプロジェクトは明るいイメージですし、何より、私たちが楽しみです」と話してくれました。

里親さんがつないだ絆

「福島ひまわり里親プロジェクト」を通じて、全国の里親さんからたくさんの元気が寄せられました。そして、温かな絆の物語がすでに始まっています。

全国各地の小学校では、子どもたちの夏休みの宿題として、ひまわりの栽培と観察記録に取り組んでくれました。三重県松阪市立松江小学校もその1校。

「新たな年を迎え、震災からもうすぐ1年が経とうとしておりますが、未だに復興には程遠い現状があることに心を痛めております。クラスの子どもたちは、自分たちと変わらない年齢の子たちが親を失い、家を失い、学校を失ってしまった現状にショックを受け、自分たちに何ができるかを考えて、この福島ひまわり里親プロジェクトに参加をさせていただきました。わずかではありますが、復興への思いを込めてヒマワリの種を送らせていただきます」(先生からのメッセージ)。

収穫された種とともに、こんな温かな言葉が綴られたメッセージ、子どもたちが撮影した明るいひまわりの写真がたくさん届きました。

このほか、代表の半田が福島ひまわり里親プロジェクトの講演でおじゃました鳥根県の松江商業高校からもご支援を頂きました。同校はスポーツが盛んな学校としても知られていますが、講演の後、野球部の監督さんがこうおっしゃってくださいました。

「半田さん、私たちが頑張っている福島のためにひまわりを育てます。野球も精一杯頑張っている甲子園出場を決めて、福島県代表の選手にこのひまわりの種を手渡したいと思えます。今年は甲子園出場、そしてひまわりを福島に届ける、その二つを目標に頑張っていきます。半田さんも頑張ってください」

後日、監督さんからお電話を頂きました。「半田さん、実は確実にお約束ができないことがあります。それは甲子園出場です。

ですが、もしも甲子園に出場できなくても、ひまわりの夢はかなえたいと思います」。

この夏、松江商業高校の甲子園出場は果たせませんでした。それでも監督さん、選手の皆さんが育ててくださったひまわりは、今年も福島や日本の大地に花を開かせるでしょう。高校球児の皆さんの「もう1つのはつらつプレー」に注目しています。

今年も、たくさんの里親さんの参加を募集しています。

「福島のために、何をしたらいいかわからなかったけれど、ひまわりを育てることで応援できるならうれしい」。震災直後、こんな声をたくさんいただきました。

「今年も、1人でも多くの福島の被災者に笑顔が見られますように」

「一輪でも多くのひまわりが明るい花を咲かせてくれますように」

「里親さんの愛いっぱいメッセージが福島を元気づけてくれますように」

そんな思いを込めて、今年も福島ひまわり里親プロジェクトは活動していきます。



ひまわりの育て方

ひまわりは植物のなかでも特に害虫にも病害にも非常に強いので手入れはとても簡単です。

◎ひまわりの特徴

- 草丈:150cm前後、耐倒伏性が強い
- 夏の暑さにめっぽう強く成長が早い
- 植物の中でもダントツに病害虫に強い
- 開花後に収穫した種はヒマワリ油やバイオディーゼル燃料としても利用可能
- VA 菌根菌の働きでリン酸の吸収力が高

まり、後作物の収量、品質が安定

◎栽培のポイント

- 排水良好で湿害のおそれのない圃場が適しています。
- 施肥量:成分量/1アール(30坪)あたり窒素0.8kg リン酸1kg カリ0.8kg

- 播種期:5~7月
- 播種量:1アール(30坪)あたり60g(3粒まき後に間引きする場合)
例1)うね幅 90cm×株間40cm
例2)うね幅 75cm×株間45cm
- 開花期:7~10月(種まきからおおよそ70日後~に開花)
- 見ごろ:おおよそ2週間ほど

ひまわりの育て方

今年もたくさんのひまわりの笑顔に会えますように!



里親さんから温かいメッセージ

全国の里親さんから、温かいメッセージが続々と届いています。メッセージのいくつかを抜粋してご紹介します。



こんにちは。私達は「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しました。送られてきたひまわりの種を植え、水をやり、一生懸命育てました。でもこの前新聞を見て、ひまわりの根は地中深くはりすぎて、あまり放射性物質をとりのぞく力がないことを知りました。送るかどうかみんなで考えましたが、元氣印のひまわりを見て福島のみなさんに元氣になってほしいと思ったので、結局送ることにしました。

がんばって前のような福島になつて下さい。応援しています。

平成二十三年十月十九日

三島市立西小学校

児童会長 細野 海生

「復興ヒマワリ 里親プロジェクトのみなさまへ」

三月の東日本の震災後もまだまだ大変な日々をお過ごしとかと思います。少しながら復興のお手伝いをさせていただきたく、里親プロジェクトに参加させていただきました。なるべく多くの方々に協力していただきたく、声をかけたところ、

友人、知人、お客様、地元の小学校、先生方に快くご協力していただけた。ヒマワリが太陽に向かつて育っていく姿は、とてもかわいく、笑顔になれました。私たちにはこれくらいの事しか出来ませんが、一人でも多くの笑顔が戻るように、私たちも一緒にガンバっていきます。

美容室

モンペトクワ

スタッフ一同

「福島のみなさん」

私達は今年の九月に学校行事で文化祭を行い、その文化祭を作り上げる文化祭実行委員というのをやりました。そこで、私達はただ例年のように文化祭をするのではなく、被災地からは離れていても何かの形で支援できるような文化祭にしようと考えました。そこで掲げたテーマはCandoです。

私達にも被災地のために何かができるということを感じることが大きなテーマでした。

京都にいる私達にはできることは少ないかもしれないし、できたとしても「微力」かもしれませんが、でもそれは決して「無

力”ではないと思っています。みなさんにもこの思いが届けばいいなと思っています。私達にできることはいくらでもあるし、いくらでもしたいと思っています。しかしただ願うだけでは届きません。何かをしたいという思いが形になると届くと思います。そして思いは新たな形になって力になると思います。私の小さな思いが少しでも皆さんの力になればいいなと思ひ手紙を書きました。

立命館高校

荒木 結香子

「ふくしまのみなさんへ」

ひまわりのたねをおくってくれて、ありがとうございます。ぼくたちが、そだてたひまわりのたねをつかってください。

はぎし立むつみ小学校三年

大田 けん太ろう

このほかにたくさん温かいメッセージをいただきました。全国ひまわりの里親さん、やさしさをありがとうございます。



主なメディア掲載

新聞、ラジオ、TVなど、多数のメディアに取り上げていただきました。関係者のみなさまに、改めて御礼申し上げます。主な報道は次の通りです。

【新聞】
AFP通信／朝日新聞／大分合同新聞／神奈川新聞／熊本日日新聞／山陽新聞／城南新報／全国商工新聞／中国新聞／中日新聞／The Daily Telegraph／東京新聞／新潟日報／西日本新聞／福島民報新聞／毎日新聞／山梨日日新聞／読売新聞／ロイター通信／山陽新聞／横濱タウン新聞

【ラジオ】
FM香川／FMくらしき／J-WAVE／NHKラジオ／中国放送RCCラジオ／エフエムくらしき／エフエムふくやま／エフエム山陰／OBS大分放送／香川西日本放送／ドリブラジオ／ラジオ日本／ラジオ福島／レディオキューブFM三重／西日本放送／静岡放送

【テレビ】
FRANCE24／山陰中央テレビ／アラブテレビ／四国放送／テレビユー福島／栃木テレビ／NHK広島

【ケーブルテレビ】
伊万里ケーブルテレビ／尾道ケーブルテレビ／ケーブルネットワーク淡路／シティーケーブル周南／伊達ケーブルテレビ／松坂ケーブルテレビ／遠野テレビ

【情報誌など】
THE BIG ISSUE JAPAN／Tokyo Waker／こおりやま情報／DOIT!／Health Today／居酒屋甲子園／はっぴーママ新潟版／伊勢原タウンニュース／北信川net／復興支援メディア隊／タウンニュース

その他100社以上のメディア様にご紹介いただきました。(敬称略／順不同)

2012年の主な予定

今年も盛りだくさんのイベントを開催します!

▽1月～
福島県内各地でのひまわりメッセージ展
里親さんから寄せられたメッセージを博物館、市役所、駅、車内、施設などに展示。県内100か所を巡回します。

▽2月25日～3月31日
ひまわりフォトコンテスト参加作品の電車内掲示・表彰式
フォトコンテスト入賞作品を電車内に掲示する「ひまわり復興電車」を運行(福島交 通飯坂線車内)

▽5月上旬 ゴールデンウィークから中旬
福島県内種まきツアー

▽7月下旬から8月下旬
ひまわり見学ツアー

▽その他、ひまわりにちなんだイベントを企画中!

→詳しくはホームページ
<http://www.sunflower-fukushima.com/>



福島の高校生からも「ありがとう」



里親さんの種を手にも、小野高校平田校の生徒さんからも感謝の声(前列中央が代表半田)

震災の影響で学校に通えなくなり、あさか開成高校の校舎を使って学んでいる福島県立双葉高校の生徒が、プロジェクトの益金で職場体験をしました。お礼状を一部ご紹介します。

「私たち一人ひとりが働くこと、協力すること、支えられていること、感謝することを深く考えました。貴重な機会を与えてくださったことに感謝いたします。ご支援を賜りました方々への感謝を忘れず、自分たちが人間として大きく成長し、社会で活躍していけるよう努力してまいります」

福島県立双葉高校 一二学年 生徒一同

感動と勇気のメッセージがいっぱい「ひまわり応援列車」出発!

感動と勇気いっぱいのメッセージを1人でも多くの方にご覧いただこうと、2月25日(土)から3月31日(土)まで、福島交通飯坂電車の全車両でメッセージ展を開催します。日本初の「動く福島復興

列車」、名付けて「ひまわり応援列車」です。ぜひ、皆様も飯坂電車に乗って、温かいメッセージに触れてください。



福島ひまわり里親プロジェクト 役員紹介

- 代表……半田真仁(「採用と教育」代表)
- 監査……鈴木厚志(「夢成」代表取締役社長)
- 事務……藤島康広(「アグリックス」取締役)
- WEB製作……堀内孝勇(「アディカ」代表取締役)
- 会計……吉成洋拍(「フレッシュ」専務取締役)



キャラクター「ひまぼぼ」



「ひまぼぼって、なあに?」

それは、福島ひまわり里親プロジェクトのマスコット(編みぐるみ)です。そして希望のシンボルとして、福島にやってきました!髪(?)にはひまわりをつけ、胸にはたすきをかけて、いつもぼよよ〜んとみんなをほっこりさせてくれます。